

第14回 供用期間中検査検討会 議事録

1. 開催日時 : 平成18年 8月24日(木) 13:30~16:20

2. 開催場所 : (社)日本電気協会 4階D会議室

3. 参加者 : (順不同, 敬称略)

- 出席者: 石沢主査(東京電力), 野村副主査(関西電力), 稲垣(中部電力), 小田倉(日立), 小林(中国電力), 佐々木(日立), 笹田(北海道電力), 佐藤(発電技検), 柴山・清水(MHI), 高柳(東京電力), 中川(四国電力), 羽田(GEII), 原田(九州電力), 原田(原子力エンジニアリング), 藤澤(原子力安全・保安院), 枡(電源開発), 師尾(日本原電) (計18名)
- 代理出席者: 山本(東芝・成瀬), 河野(JNES・三原田), 直本(電中研・笹原) (計3名)
- 欠席者: 加藤(JSNDI), 清水(東北電力), 東海林(IHI), 杉江(原技協), 西田(北陸電力), 新田(富士電機システムズ), 羽田(丸紅), 綿谷(WH), 米山(発電技研) (計9名)
- 常時参加者: 大岡(日本溶接協会), 岡田(パプコック日立), 島田(海上技術安全研究所), 横山(JNES) (計4名)
- オブザーバ: 荒井(産報出版) (計1名)
- 事務局: 大東, 長谷川(日本電気協会) (計2名)

4. 配付資料

- 資料 14-1 供用期間中検査検討会 委員名簿
- 資料 14-2 第13回供用期間中検査検討会 議事録(案)
- 資料 14-3 構造分科会 平成18年度活動計画(修正案)及び検討会委員変更の書面決議の結果について
- 資料 14-4-1 JEAG4207-2004 軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験指針アンケート結果集計表&条項等修正への採否(BWR関係)(案)
- 資料 14-4-2 JEAG4207-2004 軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験指針アンケート結果集計表&条項等修正への採否(PWR関係)(案)
- 資料 14-5-1 JEAG4207-200X 改定案 1章
- 資料 14-5-2 JEAG4207-200X 改定案 1章解説
- 資料 14-5-3 JEAG4207-200X 改定案 2章
- 資料 14-5-4 JEAG4207-200X 改定案 2章解説
- 資料 14-5-5 JEAG4207-200X 改定案 3章
- 資料 14-5-6 JEAG4207-200X 改定案 3章解説
- 資料 14-5-7 JEAG4207-200X 改定案 4章
- 資料 14-5-8 JEAG4207-200X 改定案 4章解説
- 資料 14-6 JNES-SS レポート ニッケル基合金溶接部の非破壊検査技術実証

5. 議事

(1) 会議定足数の確認について

事務局より、本検討会委員総数30名に対して代理を含めた本日の委員出席者数は21名で、規約上の決議の条件である『委員総数の3分の2以上の出席』を満たしていることが確認された。また、資料 No.14-1 に基づき、構造分科会書面審議（8月7日～8月18日）で承認された委員が紹介された。

(2) 代理参加者、常時参加者およびオブザーバ参加者の承認について

本日、上記、代理出席3名、常時参加4名、オブザーバ参加1名の会議参加に検討会主査から承認された。なお、東芝・成瀬委員の退任に伴い、代理参加者の山本様が新任候補として紹介された。次回の構造分科会に承認を得ることになり、了承された。

(3) 前回議事録（案）の確認

事務局より、資料 No.14-2 に基づき、前回議事録（案）が紹介され、特にコメントなく了承された。また、資料 No.14-3 に基づき、検討会委員変更の書面決議の結果が紹介された。さらに、平成18年8月22日に開催された第21回原子力規格委員会の審議状況が紹介され、その中で、JEAG4207改定に関連して、コード（規程）とガイド（指針）の整備について基本方針策定タスクで継続審議していくという説明があった。

(4) JEAG4207-2004 アンケート結果の改訂取入方針について

- 1) 小田倉委員より、資料 No.14-4-1 に基づき、前回検討会で検討できなかった、アンケート結果（BWR分）に対する、各委員からの採否意見を踏まえた JEAG4207-2004 改定原案への採否結果が説明された。また、柴山委員より、資料 No.14-4-2 に基づき、アンケート結果（PWR分）の前回保留項目の採否結果が説明された。

検討の結果、改定原案への採否が分かれた項目については、採用することを前提で改定原案を作成し、次回の検討会で検討することとした。また、アンケートの改定原案採否の検討結果は、高柳委員（BWR分）、柴山委員・清水（澄）委員（PWR分）が整理して、事務局でまとめて委員に配信し、委員を通してアンケート質問者に回答することとした。

- 2) 小田倉委員より、資料 No.14-5-1,2,5,6 に基づき、JEAG4207-200X 改定案（第1章、第3章本文・解説）（素案）の概要が説明された。

検討の結果、改定内容が広範なため、各委員持ち帰り確認・検討し、意見・コメントを9月8日（金）まで事務局が受付けることとした。事務局は意見・コメントをまとめて、作成担当者に配信することとした。なお、今回説明できなかった、JEAG4207-200X 改定案（第2章、第4章本文・解説）（素案）についても同様とした。

今後の改定案検討に当たっては、以下の意見を考慮した上で進めていくことが了解された。

- a. 規格策定におけるプロセス・トレーサビリティを明確にする意味で、経緯・改定の考え方などを残しておく必要がある。
- b. 改定案の比較表フォーマットは、前後比較の右端に改定理由欄、JNES レポートノア

ンケート調査欄を設ける。改定理由欄には前項 a . の経緯・改定の考え方を記載し、JNES レポート / アンケート調査欄には JNES レポート No. 及びアンケートの質問 No. を記載する。

- c . 改定案作成の方法として、本文と解説をセットで記載してその中で本文と解説を棲み分けできるようにする。正式改定版の構成は、基本方針策定タスクにおける検討の結論が出た段階で決定する。
- d . 改定案の作成・検討に当たって、委員の共通認識を持つ意味で、原子力規格委員会 規格策定基本方針を事務局より、委員全員に配信してはどうか。 配信する。

アンケート結果の改定原案採否結果と改定案（素案）のコメントを反映した改定原案は、これまでと同様にメーカー委員に作成してもらうこととした。

(5) J N E S レポート等の改訂取入状況について

J N E S レポート等の改訂取入状況は、前回検討会で資料 14-6 の説明が行われ、JEAG4207-200X 改定原案に反映させていくこととしているため、改定原案の検討時に確認していくこととした。

(6) その他

次回検討会は平成 1 8 年 1 0 月 1 2 日（木）に開催する予定。

以 上